

東北大学大学院教育学研究科・教育学部

自己点検報告書

2015（平成 27）年 4 月～2018（平成 30）年 3 月



2019（平成 31）年 3 月

評価委員会

まえがき

本報告書は、2015（平成 27）年度から 2017（平成 29）年度の 3 年間にわたる東北大学大学院教育学研究科・教育学部の自己点検報告書です。本部局ではこれまで、1998 年（平成 10 年）4 月から 2003 年（平成 15 年）3 月までの 5 年間、2003 年（平成 15 年）4 月から 2010 年（平成 22 年）3 月までの 7 年間、2010 年（平成 22 年）4 月から 2012 年（平成 24 年）3 月までの 2 年間、2012（平成 24）年 4 月から 2015（平成 27）年 3 月までの 3 年間について自己点検を行い、報告書を作成してきました。本報告書はこれらに続くものとなります。

ここで報告される自己点検の対象となった 2015 年度から 2017 年度の期間は、国立大学第 2 期中期目標・中期計画の最終年度から第 3 期中期目標・中期計画の 2 年目までに相当しています。したがって、本報告書は第 2 期における本部局の目標達成度および第 3 期において設定された目標や計画への取組について評価するための重要な資料になるものと思われまます。また、この期間は里見前総長の指示の下、教育情報学研究部・教育部との統合を含む組織改革に取り組んだ時期と重なります。本年度（2018 年度）から教育学研究科は新組織になりましたので、今回の自己点検は、組織改革前の状態を評価する最後の機会ということになります。さらに本年度は、大野新総長の下で東北大学が新たにスタートした年に当たります。昨年 11 月には、「東北大学ビジョン 2030」が策定され、東北大学の今後の目標と進むべき方向性が示されました。本部局としても、組織改革の成果を高め、ビジョン実現に向けた様々な取り組みをしていかねばなりません。その意味で本報告書は、旧教育学研究科に関するひとつの総括であるだけでなく、組織改革を客観的に評価するためのベースラインのはたらきをするものとして、きわめて重要であると思います。

新組織においては、「教育情報アセスメントコース」「グローバル共生教育論コース」の設置、「公認心理師」取得が可能となるカリキュラムの整備など、これまで以上に社会情勢や教育ニーズの変化に対応できる体制を整えました。また、教育や研究の国際化も着実に進めているところです。これらの成果については次の自己点検の機会に譲りたいと思います。

最後になりましたが、評価委員会をはじめ、資料の収集、本報告書の作成に尽力をいただいた方々に、この場を借りて感謝申し上げます。

2019（平成 31）年 3 月

東北大学大学院教育学研究科長 工藤 与志文

目次

まえがき	1
第1章 沿革・現況・展望	
第1節 研究科の概要	4
第2節 第2期中期目標・中期計画における最終年度	11
第3節 第3期中期目標・中期計画の初年度及び2年度	16
第4節 全学への貢献に向けての今後の展望	30
第2章 研究活動	
第1節 研究科としてすすめてきた研究活動	35
第2節 教員個人における研究活動	46
第3節 現状と今後の課題	82
第3章 教育活動	
第1節 学部教育	84
第2節 大学院教育	95
第3節 その他特筆すべき取組	127
第4節 現状と今後の課題	129
第4章 広報・交流・社会貢献活動	
第1節 本研究科の広報活動	131
第2節 本研究科の社会貢献	139
第3節 教員に関係する報道	165
第4節 現状と今後の課題	167
第5章 管理・運営	
第1節 組織運営に関する取り組み	169
第2節 その他管理運営に関する取り組み	178
第3節 現状と今後の課題	184
あとがき	185